

令和7年度個別学力検査（後期日程）

## 問題訂正紙

### 小論文

### (先進医療科学科)

#### 注意事項

1 試験開始まで、この問題訂正紙を開いてはいけません。

「解答はじめ」の指示の後に訂正の内容を確認してください。

2 試験終了後、この問題訂正紙は持ち帰ってください。

## 5 ページ 2 下線部の訂正

本文の1行目

【誤】 図1は、2021年度の国民医療費・対国民総生産比率の年次推移で、・・・

【正】 図1は、2021年度の国民医療費・対国内総生産比率の年次推移で、・・・

図1のタイトル

【誤】 図1. 国民医療費・対国民総生産比率の年次推移

【正】 図1. 国民医療費・対国内総生産比率の年次推移

大分  
018

後期日程

# 令和7年度個別学力試験問題

## 小論文

(先進医療科学科)

解答時間 90分

配点 150点

### 注意事項

1. 解答開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入してください。
3. 解答は解答用紙の指定された解答欄に横書きで記入してください。
4. 問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁及び汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 問題冊子及び下書用紙は持ち帰ってください。

1

以下の文章を読んで、次の設問に答えなさい。

記憶は人間にしかできない。大事なことを覚えておいて、必要なときに、思い出し、引き出してくるとするのは、ただ人間のみできることである。ずっとそう考えられてきた。その能力をすこしでも多くもっているのは、“優秀”な人間とされた。教育機関が、そういう人間の育成に力を注ぐのは当然の責務である。

これまでは、これに対して、深く考える必要がなかった。疑問を投げかけるものがなかったからである。ところが、ここ数十年来、しだいに大きく、記憶と再生の人的価値がゆらぎ始めた。

コンピューターという機械が出現したからである。コンピューターがその名の示すように計算をするだけなら、それほど、おどろくこともない。コンピューターは計算機の殻を脱皮すると、すこしずつだが人間頭脳の働きに近づき出した。

そのうちで、すでに確立しているのが、記憶と再生の機能である。これまで人間にしかできないとばかり思われていたことを、コンピューターがどんどん、いとも簡単に片付けてしまう。人間なら何十人、何百人もかかるような仕事を一台でこなしてしまうのを目の当り見せつけられて、人間ははじめのうちこそ舌を巻いて感嘆していられた。

(中略)

人間は機械を発明して、これに労働を肩代わりさせてきた。機械は召使いで、人間が思うように使いこなす。そう考えることもできるけれども、逆から見ると、人間は自分の作り出した機械に仕事を奪われる歴史をくりかえしてきたと見ることもできる。ただ便利になったと言って喜んではいけない。

これまでの歴史でもっとも顕著な事例は、産業革命である。それまで人力で行なわれていた工場作業が、馬力をもった機械によってとってかわられた。それによって、工場の主役は人間から機械に移った。人間は機械を操作するにすぎない。実際にものをこしらえるのは、機械である。

機械に仕事を奪われた人間は、機械には手の出ない事務所の中に主要な働き場所を見つけて、サラリーマンが生れた。事務のできるのは人間だけである。その事務が複雑になるにつれて、おびただしい事務員が必要になった。

産業革命は、機械が工場から大量の人間を追い出した変化であった。人間らしい仕事を求めて、人々は事務所へ立てこもった。ここへは機械は足をふみ入れることができない。聖域である。この状態が西欧においては二百年続いたのである。

コンピューターの登場で、この聖域はあえなくつぶれようとしている。機械がすばらしい事務能力をもっている。人間は何かというと不平を言うが、コンピューターは文句を言わない。労働基準法にしばられることもないから、不眠不休も可能である。泰平の夢になれてきたサラリーマンは思いもかけぬ強敵の出現に、もっとおどろかなくてはならないはずだ。

機械と人間の競争は、新しい機械の出現によって“機械的”な性格をあらわにする人間の負けに終るのである。コンピューターは、われわれの頭がかなりコンピューター的であったことを思

い知らせた。しかも、人間の方がコンピューターよりもはるかに、能力が劣っているときている。

これでは、社会的に自然淘汰の法則を受けないではいられない。“機械的”人間は早晚、コンピューターに席を明け渡さなくてはならなくなる。産業革命を考えても、この予想はまずひっくりかえることはあるまい。

これまでの学校教育は、記憶と再生を中心とした知的訓練を行ってきた。コンピューターがなかったからこそ、コンピューター的人間が社会で有用であった。記憶と再生がほとんど教育のすべてであるかのようになっているのを、おかしいと言う人はまれであった。コンピューターの普及が始まっている現在においては、この教育観は根本から検討されなくてはならないはずである。学校だけの問題ではない。ひとりひとりの頭のはたらきをどう考えるか。思考とは何か。“機械的”“人間的”概念の再規定など、重要な課題がいくらかでもある。

この本が、知ること、よりも、考えることに、重点をおいてきているのも、知る活動の中には、“機械的”側面が大きく、それだけ、“人間的”性格に問題をはらんでいるとする考え方に立っているからである。

いちはやくコンピューターの普及を見たアメリカで、創造性の開発がやかましく言われ出したのは偶然ではない。人間が、真に人間らしくあるためには、機械の手の出ない、あるいは、出しにくいことができるようになってはならない。創造性こそ、そのもっとも大きなものである。

しかし、これまで、グライダー<sup>(注)</sup>訓練を専門にしてきた学校に、かけ声だけで、飛行機をこしらえられるようになるわけがない。はたして創造性が教えられるものかどうかすら疑問である。

ただ、これからの人間は、機械やコンピューターのできない仕事をどれくらいよくできるかによって社会的有用性に違いが出てくることははっきりしている。どういうことが機械にはできないのか。それを見極めるのには多少の時間を要する。創造性といった抽象的な概念をふりまわすだけではしかたがない。

本当の人間を育てる教育ということ自体が、創造的である。教室で数えるだけではない。赤ん坊にもものごころをつけるなどというのは、最高度に創造的である、つよいスポーツの選手を育てあげるコーチも創造的でなくてはならない。芸術や学問が創造的であるのはもちろんである。セールスや商売もコンピューターではできないところが多い。その要素が多ければ多いほど創造的であるとしてよい。

人間らしく生きて行くことは、人間にしかできない、という点で、すぐれて創造的、独創的である。コンピューターがあらわれて、これからの人間はどう変化して行くであろうか。それを洞察するのは人間でなくてはできない。これこそまさに創造的思考である。

(出典：外山滋比古、『思考の整理学』 筑摩書房 1986年4月24日 第一刷発行 より抜粋、一部改変)

(注)グライダー： 独力で考えたり知識を得ることができないことの例え

**問** この文章は、1980年代に刊行された本からの抜粋です。これを読んで、約40年が経過した現代との類似点もしくは相違点、また真に人間らしくあるために必要なものは何かについて、あなたの考えを500字以内(句読点を含む)で述べなさい。

次のページにも問題があります。

2 図1は、2021年度の国民医療費・対国民総生産比率の年次推移で、図2は、2022年10月1日現在の我が国の人口ピラミッドを示したものです。このグラフについて、後の問いに答えなさい。

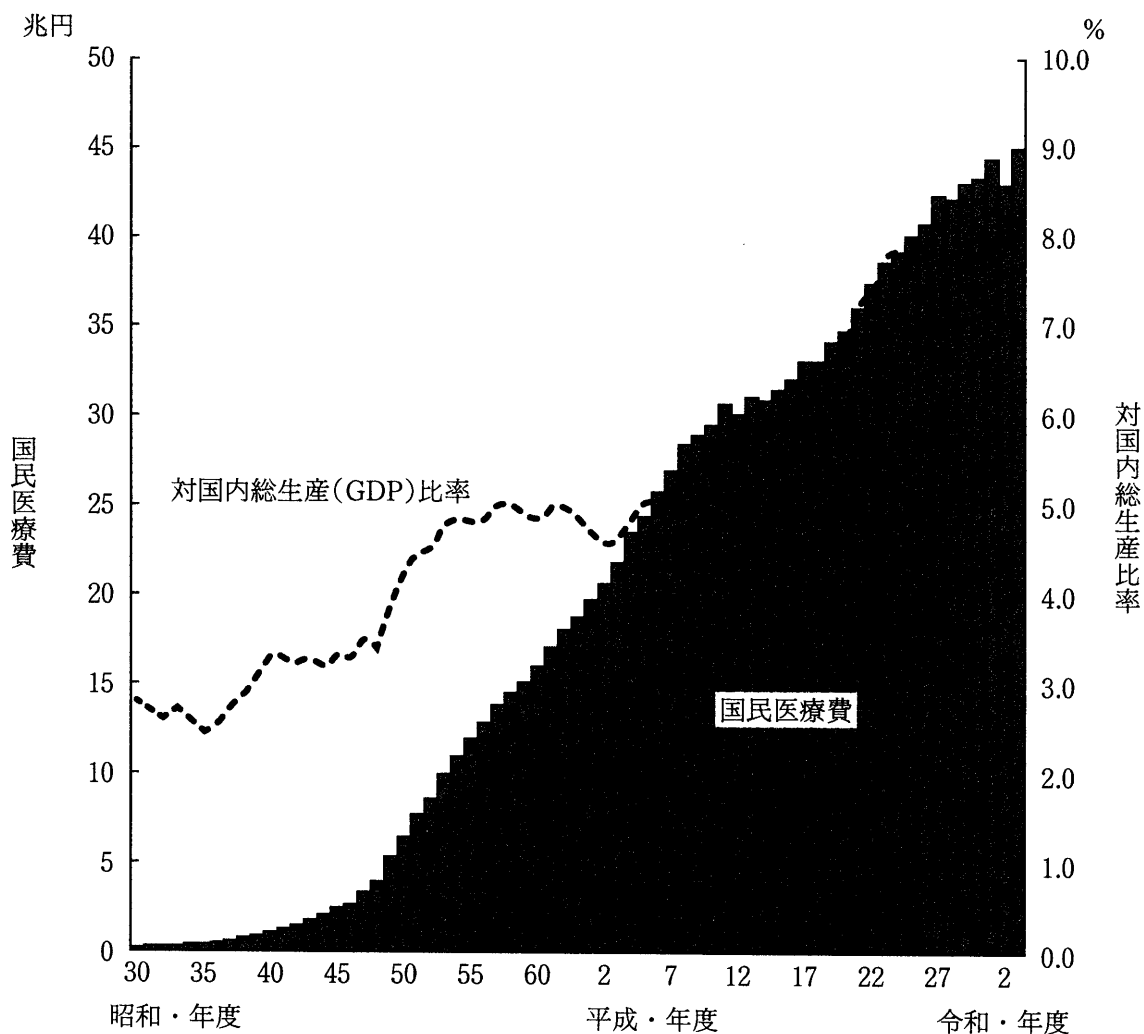


図1. 国民医療費・対国民総生産比率の年次推移  
厚生労働省 令和3(2021)年度 国民医療費の概況より引用

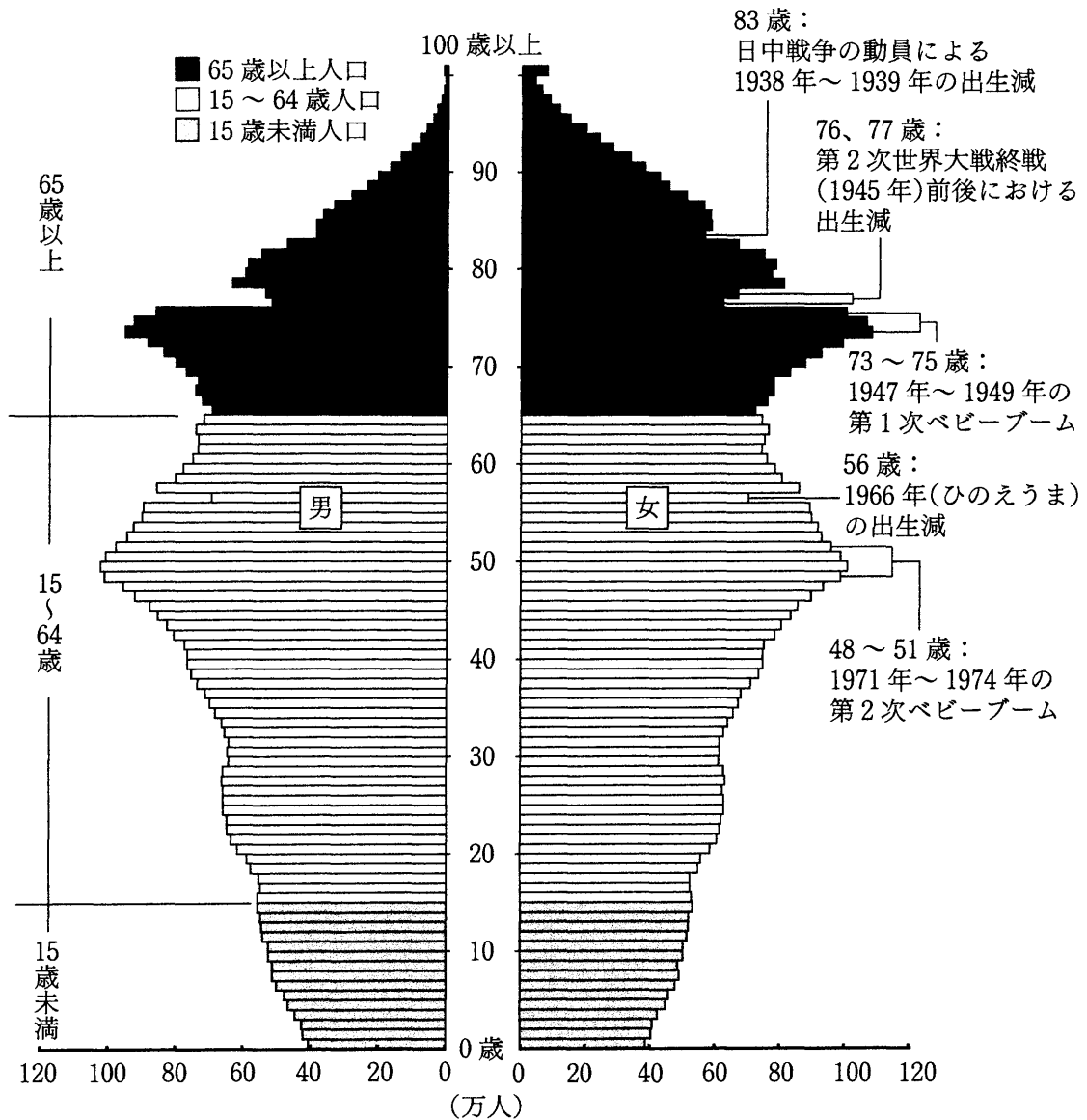


図2. 我が国の人口ピラミッド(2022年10月1日現在)

総務省統計局ホームページ 人口推計(2022年10月1日現在)結果の要約より引用。

(引用年月日：2024年8月7日)

問 このグラフから読み取れる内容から、将来起こり得る日本の医療の問題点を指摘して、あなたが考える解決策について500字以内(句読点を含む)で論述しなさい。